

## 講演会報告

### 第 72 回応用物理学会学術講演会 (2011 年秋季)

講演会企画運営委員長 河田 聡\*

第 72 回応用物理学会(2011 年秋季)学術講演会は 2011 年 8 月 29 日(月)から 9 月 2 日(金)まで山形大学 小白川キャンパスで開催されました。東日本大震災の影響で春季講演会(神奈川工科大)が急遽中止されたため、一年ぶりの応用物理学会学術講演会です。しかも、震災からの復興を期する東北での開催、そして応用物理学会史上初めての山形で開催になりました。

震災の影響により経済が低迷する中にもかかわらず、幸いにも 5,601 人の方々が登録参加し、3,740 件の発表が行われました。例年と異なり講演会場数の関係から 5 日間の開催となったこと、当局からの節電要請により昼に 2 時間の一斉休憩時間を設けたことなど、参加者には混乱を与える形となりご迷惑をおかけしましたが、ご理解とご協力をいただいて無事 5 日間を終了することができました。特に山形地区での宿泊収容数の不足により遠距離を毎日通っていた参加者、口頭講演からポスターへの変更を受け入れてくださった方々にはご協力に感謝します。

今回からは、関連するテーマのシンポジウムと一般セッションが同時に平行で行われることを避けて両方が聞けるように、招待講演中心のシンポジウムを原則的に初日に開催し、一般セッションを 2 日目以降に願いました。

また、今回からチュートリアル(ショートコース)を始めました。これは、学生時代に学ぶことのなかった新しいテーマを大学の講義形式でもって受講できる新しい企画です。また、著名な教授や研究者の講義を所属大学以外の学生もライブで聴くことができるように、という意図もあります。一般講演セッションでの講演や議論の理解を助ける目的でこれも初日に企画されました。参加者数に定員制限を設けたところ、事前申し込みに加えて当日参加申し込みが多くあり、定員オーバーが続出してしまいました。講義時間が短すぎたことやシンポジウムと時間が重なったことなども併せて、次回以降への課題とします。チ

ュートリアル参加費は今回に限り試行として無料でしたが、次回からは有料となります。

展示会は、秋の講演会としては史上最多の 153 小間(昨年は 113.5 小間)、出展企業は 130 社(昨年は 104 社)となりました。参加にご協力いただいた企業各社に厚く御礼申し上げます。今回は初めて会場をテーマ別にゾーニングしました。関連分野を集めることにより、移動距離を短くして製品比較ができるようにしましたが、ゾーンの案内がまだ不十分であったように思います。また、シンポジウムと展示ゾーンのコラボも企画しました。「有機 EL」および「ラマン分光」のシンポジウムと出展会社に、それぞれ協力を戴き、シンポジウム参加者への展示会場での弁当サービスを行いました。今後も講演会場と展示会場のコラボレーション企画をさらに進めていきたいと考えています。

展示会場はエアコン設備が無く、またミスト噴霧器は展示品に湿度を与えるため多用できませんでしたので、扇風機を約 70 台用意しました。それでも、会期中は非常に暑く、エアコンのない大学体育館での展示会開催には限界がありそうです。今後の検討課題としたいと思います。

ポスターセッションは、昨年の 5 割増となりました。これは、当局の節電要請を受けて急遽、プログラム編集の際に口頭講演の一部をポスターに回したためです。次回からは全ての中分類分科で、口頭講演とポスター発表を行う予定です。今回は図らずも、その練習の機会となりました。次回からは投稿時に口頭・ポスターの希望を選択できるようにします(ただし講演会場とポスター会場の制限から、必ずしも希望通りにはなりません)。

あまり注目されなかったかもしれませんが、今回からスマートフォンのアプリを用意しました。これを使えば、講演会場の号館や展示会のブースの場所がスマートフォンの表示画面でキャンパス地図から案内される他、講演者や講演タイトル、講演時間なども簡単に検索できます。

特別シンポジウムは「超伝導 100 周年特別シンポジウム:100 年の歴史に学ぶ超伝導ー新たな 100 年の発展に向けてー」と「有機 EL 研究開発 25 年:これまでとこれから」の 2 件、その他のシンポジウムは 15 件、チュートリアルは 8 件、そして英語セッションは 2 件が、開催されました。会期中は一時雨が降ったものの比較的よい天気にも恵まれ、特に歴史ある文翔館での野外・懇親会では、結城章夫山形大学学長ご臨席の下、約 300 名の参加者が山形をはじめ東北の食材と地酒を楽しみ、親交を深めました。

山形大学と東北支部の方々による実行委員会の方々による一年間の準備とアルバイトの学生さん達を含めての 5 日間と前日、前々日の現場での活躍

のお陰で、全ての行事を滞りなく進めることができました。現地実行委員長の大嶋重利先生(山形大学)、副委員長の廣瀬文彦先生(山形大学)、佐々木実先生(山形大学)をはじめ、現地実行委員会の諸先生に厚く感謝申し上げます。また現地実行委員会顧問として全体運営にご配慮いただきました結城章夫 山形大学長、小山清人 山形大学理事、坂本政臣 山形大学理学部長、那須稔雄 山形大学地域教育文化学部長、宮崎照宣 東北大学名誉教授をはじめとする関係の方々に、厚くお礼申し上げます。

※大阪大学大学院・理化学研究所